

アルミ輸入は円安を背景に減少

アルミ二次合金生産七カ月ぶり増

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート②

の三、〇五四し。

【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比・七%減の・七万〇、〇七五し。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一%増の六万九、九四三しであった。(六面に続く)

【概況】四月前半は雇用統計の非農業雇用者数減少や失業保険申請件数減少に伴う米金融緩和期待や日銀金融政策決定会合での追加的金融緩和など好材料もあったが三月のISM非製造業景況感指数の悪化や日米株の好調に伴う資金流出を嫌気して、LMEアルミは一、八二一ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約六四ドル下落しての前半締めとなった。

後半は米株式の史上最高値更新、日経の年初来高値更新、二月の米住宅価格指数は前月比〇・七%上昇、三月の米新築住宅販売件数は前月比一・五%増加など好材料もだが、中国の一〜三ヶ月のGDPが七・七%増と予測の八%を下回った事、それに伴い米格付け会社ムーディーズによる同国債の一段階引き下げ、中、独、米のPMI(製造業指数)の悪化などマイナスマテリアルの中、一、八〇〇ドル前半まで下落。

ただGW明けの五月七日現在、ECBの利下げ観測や非農業雇用者数が一六・五万人と予測の一四万人から改善したことを好感し、LMEアルミ(現物後場)は一、八四六ドルと前半締めから二五ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・四%減の八二万三、一四五台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二%増の二一萬三、一八五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・三%増の七万一、四五六戸。

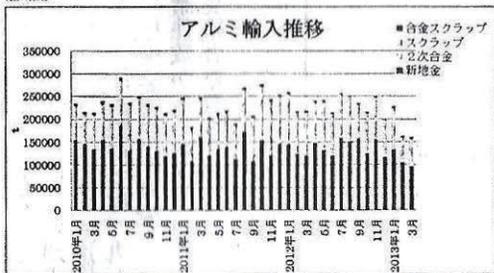
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比二八・四%増の二四九し、二次合金が四二・二%減の九五九し、スクラップが七・二%増の一萬三、七八二し。

輸入は新地金が前年比二〇・六%減の九万五、二〇九し、二次合金が三五・四%減の六万〇、五六八し、スクラップが四三・三%減の七三〇し、合金スクラップは二〇・一%減

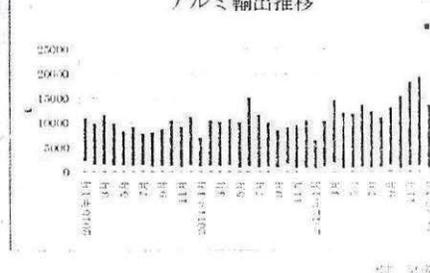
輸入	1月	2月	3月
新地金	13万1684	10万3596	9万6209
前年比	-9.2%	-16.5%	-20.6%
二次合金	9万1268	6万6269	6万6681
前年比	-16%	-38.3%	-35.4%
スクラップ	1161	723	730
前年比	+86.5%	-20.7%	-43.3%
合金スクラップ	3296	2004	3054
前年比	-43.4%	-3.9%	-20.1%

輸入推移



輸出	1月	2月	3月
新地金	1211	501	2191
前年比	-15%	-66.4%	-28.1%
二次合金	7441	751	9991
前年比	-2.1%	-11.5%	12.2%
スクラップ	12770	17563	11782
前年比	+123.1%	+87.6%	-7.2%

輸出推移



国内アルミ原料需給はな おタイト感

ALME 上値は二千ドルにとどまるか

【四面より続く】
【見通し】

四月は、米経済後退懸念に足を引く張られた月となった。

F O M C 議事録で金融緩和の終了時期について二〇一三年を想定しているとの報道や、A D P 雇用統計の悪化、ポストンマラソン爆破事件によるセンチメントの悪化から、

直近の米週間失業保険申請件数の減少、四月の雇用統計で失業率が七・五%と前回より〇・一%改善したことから下げ幅は抑えられたものの、今後の米経済指標に注目。

自動車生産は前年比一六・四%減と二桁の悪化で、七カ月連続マイナス。輸出向け、国内共に二桁悪化。販売の方は前年比二%増とようやく回復の兆しか。

新設住宅着工戸数は先月に続き七カ月連続増加、前年比七%増(季節調整済み前月比四・三%減)の七万一、四五六戸。唯一堅調な住宅関連。消費税アップ前の駆け込みなど今後の動向に注目。

自動車関連のアルミ二次合金生産は前年比一%増と七カ月ぶりのプラス。

大幅円安に伴う海外玉からのシフトや自動車販売台数の改善からの注文増の見解。

その他、圧延・押出品生産数は前年比一七%減と悪化。

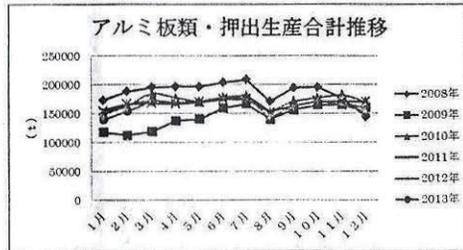
圧延に関しては自動車向けがエコカー減税の反動や、中国・アジアへの輸出減から一四%減。輸出は新地金が前年比二八・四%増の二四九t、二次合金が四二・二%減の九五九t、スクラップが七二%増の一万三、七八t。国内需要が旺盛な二次合金以外は円安を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比二〇・六%減の九万五、二〇九t、二次合金は三五・四%減の六万〇、五六八t、スクラップは四三・三%減の七三〇t、合金スクラップは二〇・一%減の三、〇五四t。

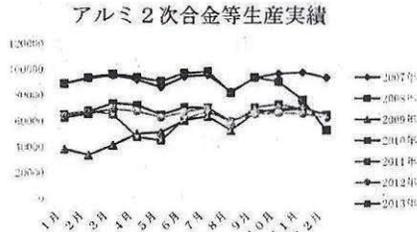
新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、前月に続きスクラップは輸入塊の割高感から一部、安いスクラップへ原料シフトしたものの依然として韓国への輸出が好調なことから輸出増加との見解。

引き続き原料需給には供給不足。新年度入りし、予測通りアベノミクスと思われる効果が出だした。新設住宅着工数が前年比七%増と七カ月連続増加。三月の自動車生

産こそさえなかったが、四月の自動車販売台数が二%増と増加。今後は増税前の駆け込み需要に対応するため、国内二次合金需要が増加するためスクラップ需要も増加するとの予測。LME 価格に関してはやはり米中の経済指標に一喜一憂。中国の一ヶ月の GDP や PMI 指数の低迷や米雇用指標が共に好調である可能性は現状では低く、また過剰流動性資金が現在は、株、国債、通貨に流れておりコモディティ(商品)への流入がみられないことから、上値は三月最高値付近の二、〇〇〇ドル。下値は銅価格の急落にも連れず一、八〇〇台にとどまった事から、下値固め終わつたとの見解から一、八〇〇ドル。スクラップ価格については LME 価格がレンジ内の動きではあるが、円安の長期化や国内需要の増加から据え置き一五円アップ程度の値上げがあるとの予測。



出典 日本アルミニウム協会



出典 日本アルミニウム協会